

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月27日(金)  
その3

## ◇ きっかけ② 記念式典に向けた準備の経過を振り返る

「きっかけ」というのは絶妙な存在で、その「きっかけ」を境に事が善きに転じることは多々あることである。

(※事が悪しき方向に転ずる場合、「きっかけ」は使わずに「発端」や「ひきがね」を用いる。)

ただし、「きっかけ」とするかどうか、できるかどうかは、その人に委ねられる。絶妙なタイミングだと悟って「きっかけ」とするのか、ぼうっと聞き逃し、見過ごして好機を逃すかは、受け手の心持ちが大部分を占める。

幾度となく好機を逃してきた自分であるが、今回(式典に向けた準備)は違った。

### <ここから パート2 (その2編) >

地タイルの目地を埋めるのは汚泥だ。泥の上にコケが繁殖する。その上、目地の汚泥は雑草が生える温床となる。

①コケの繁殖 ②コケによる滑り ③雑草床 ④見た目の汚さ ⑤その他諸々  
まさに地タイルの目地の汚泥(汚れ)は、様々なマイナス要因を抱えていることが分かった。

これを機(きっかけ)に、高圧洗浄のメインは「タイル汚れの除去」から「汚れ除去」+「目地洗浄」へと転換する。

作業は大変だが、思わぬ収穫を得る。雑草繁殖の勢いが格段に低下したのだ。この収穫は本当に大きい。本校で最も頭を悩ますのが、「草取り」なのである。

そんな折、作業用手袋の買い替えにホームセンターに立ち寄ったところ、次なる秘密兵器を見つけた。「除草剤」である。数年前に学校での農薬の使用が禁止になり、その通知が各校を悩ませている。そこで見つけた「除草剤」なる代物。

自分も商品棚の表示を見て初めて認識したのであるが、「農薬」と「除草剤」は明確に分類され、説明付きで陳列されている。効果は種類により様々であるが、この除草剤のいいところは、①葉や茎から吸収され、根まで枯らすこと、②土に付いた薬剤は分解され、無害となること、③薬剤が掛かった植物のみ有効であること、④農薬とは種を異にすること、である。ただし、使い過ぎは土を弱らせる。

この除草剤。ほんとうに優れもので、ツンツン頭のようなスギネやヨモギ？といった生命力の強いものにも効果を発揮(※立ち枯れに3週間程度を要す)する。

右の写真の赤枠は、幼いスギナが生えていた所。今は面影がない。対して、周囲の樹木は元気である。



グラウンドに散布したところ、地下茎でつながる芝系の雑草にも(「にも」と言うよりはむしろ「の方が」)効果を表した。9月上下旬の2回(8日と28日)、寿会で環境整備を行っていただく10日ほど前に薬剤を散布したが、対応いただいた寿会の皆様にも、『いつもよりも草が抜きやすくて、いいわあ』と好評であった。

さらに、コケにも効果があることが確認できた。一石数鳥の投げ石だ。

雑草対応に頭を悩ますことがなかったら、おそらく見向きもしなかった除草剤。「きっかけ」と経験から得た「様々な要因」が重なったの発見であった。

さて、タイル洗浄に話を戻そう。

洗浄で発生するのが、汚泥を含んだ水、つまり泥水である。この処理は、側溝に流すしかない。しかし、あまりにも流れが悪い。よく見ると、なるほど納得。

側溝の蓋は2種類ある。金属製で網目状の「グレーチング」と「コンクリート蓋」である。グレーチングは隙間が多く、子供が指などを挟んでけがをすることを避けるために、学校ではコンクリート蓋を用いることが多い。本校も例外ではなく、ほとんどがコンクリート蓋である。できるだけ隙間をなくすようにはめ込まれた蓋に加え、排水用の穴はごく小さい。機能的には最小限と言える代物だ。当然、排水穴はすぐに詰まる。小石が詰まり、穴すら確認できないものもある。

洗浄作業で苦勞しているさ中、体育館裏手で、野ざらしのグレーチングを20枚ほど見つけた。どうやら山側の側溝は詰まりがひどく、清掃のために取り外したとのこと。「しめた！ 蓋の交換だ」と、すぐに市教委の施設課に交換業務を依頼。

排水はすいすい。見た目もすっきり。白のラインを塗装して児童に立ち入り禁止を伝え、事故の未然防止に努めた。



そう。除草剤の時と同じ。

苦勞していなかったら、見向きもしなかったであろう「野ざらしの汚れたグレーチング」。再利用どころか、廃棄等の処分方法を考えたかもしれないのだ。

**その2の結論** 「きっかけ」をつかむと好転し、好転は他に波及していく。